

平成 2 5 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名：沖縄県  
 市町村名：宮古島市  
 島名：宮古島  
 協定締結集落名：宮古島漁業集落  
 交付金額：4,352 千円  
 協定参加世帯数：48 人（うち漁業世帯 32 人）

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、好漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や創意工夫を活かした取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、宮古島集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

◇種苗放流（シラヒゲウニの放流）

水産資源の維持・回復に向けシラヒゲウニの放流を実施。

実施日	実施海域	放流匹数
H25.12.26	真那津地区	1,760 個

実施状況写真



種苗積込状況



種苗放流状況

◇海岸清掃

漁場の環境保全に向け海岸清掃を実施。

実施状況写真



作業状況



集積されたゴミ

◇オニヒトデ駆除

小型定置網やモズク養殖の操業の支障となっているオニヒトデ駆除を実施。

実施日	実施海域	駆除人数	駆除重量
H25.11.8	狩俣湾内	6人	330kg

実施状況写真



駆除の状況



集積状況

②集落の創意工夫を生かした取組状況

◇新規漁業の着業

新たな漁業の着業に向け、共同漁業権内にパヤオ（浮魚礁）の設置を実施。

実施状況写真



製作の状況



設置の状況

◇新規養殖業の着業

新たな養殖業の着業に向け、キリンサイの試験養殖を実施。

実施状況写真



養殖試験の状況



養殖試験の状況

◇高付加価値化

宮古島産モズクの高付加価値化を図るため、県外加工事業社への視察による聞き取り調査・意見交換等を実施。

実施状況写真



事業社との意見交換(山口県)



事業社との意見交換(熊本県)

◇伝統漁法の復元

追い込み網漁業の復元に向け、網の製作、子供達への漁業体験指導を実施。

実施状況写真



網製作の状況



漁業体験指導の様子

◇その他（魚食普及の取組）

水産物の消費促進を図るため、中学生を対象としたモズク体験教室を実施。

実施状況写真



体験教室の様子



体験教室の様子

◇その他（モズク培養種の技術開発）

モズク養殖業の安定生産に向け、液体培養や越冬等による種付方法の講習会、試験を実施。

実施状況写真



培養講習会の状況



越冬に要する資材購入

◇その他（体験漁業の取組）

宮古島の漁業の魅力発信に向け、高校生へのアサ（ヒトエグサ）収穫・加工の漁業体験を実施。

実施状況写真



収穫体験の様子



加工体験の様子

#### 4. 取組の成果

シラヒゲウニ放流により水産資源の維持・回復が見込まれ、放流漁場での漁業の継続性に繋がる。

海岸清掃の実施により、近接する漁場の環境保全及び改善が図られた。

オニヒトデ駆除により、漁場となるサンゴ礁の保全や就労時における安全確保が図られることで、生産力の向上が期待できる。

創意工夫を活かした取組として、新規漁業・養殖業の着業による漁業経費の節減や複合型経営の定着、モズク培養種の技術開発による生産の安定化、高付加価値化による漁獲物販売の安定化と総合的に取組をつなげることで漁業所得の向上が期待できる。また、伝統漁法の復元、魚食普及の取組、体験漁業の取組を実施することで漁業の魅力発信や子供達が漁業と触れあえる機会が創出できたことから、将来に向けた後継者の確保が期待できる。